

春は新鮮なタコに 元気をもらう

1年を通じて行われるタコ漁。春は漁師さんいわく「ニシン漁がひと息ついたころ」に始まります。平成18年の水揚げ量は、市内全体で150t以上。今回、取材に訪れた浜益では82tを誇ります。

「タコ漁はどの漁よりもつらい。何といっても体力勝負です」と笑うのは、門脇漁業部の門脇和子さん。理由の一つは、タコの大きさにあります。日本海側で主に捕れるタコはミズダコといって、タコの仲間でも大きな部類。頭から足の先まで1～3mにもなり、重さに至っては1匹といえども10kg以上になるため、海から引き上げるだけでひと苦労です。

タコといえば、あの“足”が印象的。これがまた重労働の原因となります。水揚げしたタコは、ゆでる準備としてすぐ頭を落としますが、当然ながら激しく抵抗します。足の吸盤が至る所にへばりつき、それを引きはがすだけで普通の人ならぐったりするところ。しかも、タコは足だけになっても元気いっぱい、吸盤に入り込んだ砂や泥を丁寧に洗い流す間も動き回るから大変です。

強烈なタコの生命力を目の当たりにした後、今度は大鍋で実際にゆでるところを見せてもらいました。そこで赤く色付いた、まだ湯気の上昇した足を切ってもらって絶句。本当においしい！ 塩加減もちょうどよく、その軟らかさと上品な甘さがたまりません。

朝市が始まる季節。この新鮮なタコの美味を求めて早速、出掛けてみませんか。

▼いけすの中のタコ。共食いを避けて1匹ずつネットに入れられていました。



▲うごめく足。ただし、このグロテスクな光景をすぐに忘れさせてくれるほど、ゆでたてのタコは絶品！



▲巨大な釜で一気にゆであげます。ちなみにゆで時間は企業秘密。その店その店の味を決める要因の一つです。



▲「タコ箱」と呼ばれる、金属製の箱。海中に沈めて、ここに潜り込んだタコを箱ごと引き上げます。



▲ゆでる前に、まずはこの機械の中へ。タコのヌメリを取る秘密兵器で、中にはヌメリ成分であるタンパク質を固める「塩」が入っています。

図 石狩湾漁協本所 ☎78-2006
石狩湾漁協石狩支所 ☎62-3331
石狩湾漁協浜益支所 ☎79-3225

個性を認め合う

◆学生時代の文化人類学講義で、いまだ記憶に残っていることといえば「顔面角度」との出会い。脳容積との関連を知り、妙に難解な学問にでも触れた気がしたもの。最近、脳の開発ブームで加齢障がい予防や、子どもたちが親の期待を背負って奮闘とのこと。使われていない脳を鍛えるのも面白いが、私は「アレ！アレさ？」「ン。アレね」で通る人間関係も悪くはないと思っている。◆脳には左脳と右脳があり、言葉は左脳作用の領域であり、芸術的表現は右脳の仕事となるのだが、左脳でスズムシの音を美しいと感じるのもどうやら日本人の特性とのこと。欧米人は騒がしく不快と感ずるらしい。川の細流を「サラサラ」と、虫の音は「リーン、リーン」から始まって限りはない。極めつけは「シーン」と静まり返る。音が出ない様を言葉で表現した。かように豊かな言語を有している。◆しかしグローバル化の中にあつて、脳の作用が基本的に違う上に、言葉や文化まで異なるのだから思い違いが生ずることをあらかじめ認識しておく必要がある。もちろん価値観の違いがあるから楽しいのであつて、3月来訪のカナダからのヤングアンバサダーの子どもたちは異文化交流から何をおみやげとしたのか。

(市長)

平和のメッセージ

「平和を願って」

沖縄県恩納村立
喜瀬武原中学校
2年

外間 未生さん



みなさんは、罪のない人々が何万人も亡くなった恐ろしい戦争が遠い昔の事だとおもっていませんか。私は、激しい地上戦があった沖縄に住んでいますが、すぐ近くにアメリカ軍の基地があり、もしアメリカが東アジアで戦争を始めれば真っ先に攻撃的になる可能性が大きいです。また、北朝鮮では核実験をやっている、いつ戦争が始まってもおかしくありません。

私は以前テレビで見た、沖縄戦の悲惨な映像に大変ショックをうけました。その映像には、火炎放射器で人々を焼き殺したり、防空壕の中に手榴弾を投げ、爆発させたりと、とても恐ろしい映像ばかりでした。とても残酷で、目をそらしたくなるものもありました。

また、昨年の社会見学では、「平和の礎」を見に行きました。「平和の礎」とは、沖縄戦で亡くなられた敵味方の関係なく、全戦没者の名前が刻まれたものです。私は悲しい気持ちになりました。そしてあらためて戦争の怖さを感じました。平和記念公園の資料館では、防空壕の中の様子が現されている部屋があり、薄暗いところで、とても息苦しそうで、私だったら耐え切れないと思いました。防空壕の中の人達はみな苦しそうな顔をしていて、とても印象に残り、忘れることができません。

6月23日は、沖縄で組織的戦闘の終わった日であり、「慰霊の日」として制定されています。毎年この日は、沖縄中が深い悲しみに包まれ、戦争で亡くなった人々の冥福を祈ります。そして、その日の正午には、沖縄の人々がみんなで平和を願って一斉に黙祷をします。

たくさんの方が亡くなった私達の沖縄や世界で、二度と戦争が起きないためにも、みんなで平和を願って、戦争の恐ろしさを伝えていきたいです。そして私たち沖縄に昔から伝わる「命ど宝」、…命こそ宝という言葉通り、命より尊いものはないという考えを大切にしたいと思います。

また私達同様、平和を大切に思う、ここ北海道・石狩の皆さんと共に平和な社会をつくっていけたらと心から願います。

●問合せ 総務課 ☎72-3149

✉soumu@city.ishikari.hokkaido.jp



恩納村 棒術



恩納村 エイサー



石狩市 心叫太鼓



「平和への取り組み」を発表
—花川中学生徒会—

「身近な問題の解決こそ、平和につながる」と中学生たちが今、取り組んでいることについて発表しました。

市民がともしたキャンドルの幻想的な雪明かりの中、恩納中学校の富田聖大さんと花川中学校の折田康弘さんが「平和の灯火」に点火。歌の翼のトーンチャイムに乗せてモニュメントをデザインした花川中学校2年の石丸千紬さんが平和を思うメッセージを発表すると、ファイナーレは参加者全員で「見上げてごらん夜の星を」を樽川中学校吹奏楽部の伴奏で合唱しました。

「平和の集い」第2部では、市役所前庭に建てられた「平和の灯火」で点火式が行われました。これは「心に平和の火をともしよう」を合言葉に市民有志が集まり、実行委員会が中心となつて建立したものです。市民がともしたキャンドルの幻想的な雪明かりの中、恩納中学校の富田聖大さんと花川中学校の折田康弘さんが「平和の灯火」に点火。歌の翼のトーンチャイムに乗せてモニュメントをデザインした花川中学校2年の石丸千紬さんが平和を思うメッセージを発表すると、ファイナーレは参加者全員で「見上げてごらん夜の星を」を樽川中学校吹奏楽部の伴奏で合唱しました。

平和の灯火点火式

実行委員会からのメッセージ

「今日、市民の作った『平和の灯火』に恩納村と石狩市の中学生が平和の願いを込めて点火した火は、夜空を照らし、会場内に置いた平和キャンドルが、皆さまの顔を明るく照らしております。平和を願う小さな火が、ご参加いただきました皆さまの心の中にいつまでも消えることなく、燃え続けることを願います」

